

【公認大会改革ワーキンググループ報告書】

ワーキンググループで検討しました公認大会改革について以下の様に報告します。

報告者：平島俊次（座長、技術担当業務執行理事）

ワーキンググループメンバー

JOA 理事：木村佳司(普及担当業務執行理事、全日本委員会)、楠見耕介(普及教育委員会)、
小林力（石川県オリエンティング協会）、宮川早穂(全日本委員会)、瀬川出(スプリント委員会)、
平島俊次（技術担当業務執行理事）

競技委員会委員長： 広江淳良

強化委員会委員長： 稲葉英雄

協議は平日夜に WEB 会議で行った。

公認大会の理念：

全国からオリエンティング愛好者が集い、スポーツマンシップのもとに競いあい、交流し、生涯スポーツを楽しむ。

目標：

- ① すべての参加者、そして運営者も楽しめること
- ② 高品質のイベントであること
- ③ 競技者が称えられること

実行計画（提言）：

1. 組織

- 1) 公認大会開催者向けのワンストップサービスの役割をもつ「公認大会推進窓口」を JOA 内に設置。

担当部署：事務局内又は総務委員会内に設置するのが望ましい。責任者（できれば理事）を理事会で決める。

実施時期：本年度内に窓口設置、2021 年度から実施。

役割：

- ・トレイン開発/渉外方法や大会運営などについてのよろず相談窓口となる。
- ・公認大会開催経験が少ない地方での開催をサポートする。JOA として課題を主催者とともに解決していく。地域活性化委員会の協力必要。
- ・事例（渉外など）を集めて利用。

- 2) フット O 委員会（仮称）の設置

フット O の大会を統括推進する組織（委員会）。

時期：委員会の統廃合にあわせ、2～3年後の設置を目指す。

役割：

- ・現全日本委員会、現スプリント委員会、新設トレインコントロールの組織（後述）を統合し、現委員会はその下部組織（分科会など）とする。
- ・将来的には、全日本大会（ロング、ミドル、スプリント、リレー）や公認大会の評価もおこなう。

2. 高品質の大会の提供

- 1) 「良いテレイン＝全ての競技者に公平な競技を提供でき、走行可能で競技者のオリエンテーリング技能を試すのにふさわしい競技エリア」を確保する。

担当部署：テレインコントロールを行う組織（新設）

実施時期：2021 年度中

- ・テレイン開発：

地元ブロック理事に協力していただき、テレイン確保の仕組みを作る。良質なテレインは地方に多くある。

- ・現有テレインの有効利用：

JOA 内でテレイン情報をまとめて提供する

現有テレインで利用できないものを含めてリストアップし整理する

（地図/テレイン管理者、渉外方法、利用時の制約条件、利用できないテレインの場合その理由など）

- ・行政との連携を推進：

林野庁、環境省などテレインに関係のある官公庁の現役や OB、OG との面識を深め相談する（例えば国交省にいた安藤さんなど・・・）

- 2) ルールに基づいた公式な競技とするため、公認大会の申請を規則に沿ってきちんと審査する。

担当部署：競技委員会。

実施時期：2021 年度の申請から。

- ・ルールを順守していただくために、規則の背景についてなどを JOA 会員、クラブ、競技者へ広報。

（なぜ公認申請は早くないといけないのか、EA の存在価値/役割など）

- ・早めの公認申請を推奨する。

- ・EA を早めに決め、できれば申請前にテレイン、大会コンセプトなどを EA に相談する。

- 3) 楽しめる大会の提供

- ・レベルや年齢にあったクラスの提供。

競技性も高く高齢者でも楽しめるように作られた WMOC マニュアルを参照。全てを適用する必要は無いが大いに参考になる。

- ・クラスによってロングとミドルを混在させる。（例えば M/W40 以上はロングの仕様、M/W21、M/W35 はミドル仕様など）。

規則改正の必要性は競技委員会で確認する。規則改正不要の場合でもこのことを周知する。

時期：規則改正の確認など終われば早急に広報する。

担当部署：競技委員会

- 4) 運営の品質向上

- i. イベントアドバイザー（EA）について

- ・EA 教育制度の充実で質（職務を全うできる能力）の底上げをはかる。

- ・運営組織と EA 間でイベントプランを作成し合意すること（イベントプログラム、地図、テレイン、会場、宿泊、交通、組織、予算、・・・）を推奨

時期：2021 年度から準備、2022 年度から実施。

担当部署：競技委員会

- ・EA をサポートする体制（地図委員会、競技委員会などによる）をつくる。

ii. 運営役員について

- ・公認大会の運営責任者に D1/D2 の有資格者配置義務を、運営者の教育受講に（D1/D2 ではなく）置き換える

時期：2021 年度から教育開始し、2022 年度から実施。

担当部署：競技委員会。

3. 競技者を称える（大会に参加したいと思えるように）

1) 競技会での成績を称える

- ・成績上位者に JOA のメダルを授与

公認大会の価値があがれば参加費を上げてメダル代を捻出、それまでは JOA 内予算から拠出。

→JOA で予算化（10-15 万/大会）2021 年度予算要求。

- ・優勝者を JOA の公式メディアで称える。（web など）

→JOA 事務局

- ・新聞/TV など一般メディアへのニュースリリース

* 取り上げてもらいやすい地方紙が有効。メディアに後援名義申請する。後援名義については、JOA/県協会、公認大会推進窓口が支援する。

→JOA 総務委員会/事務局/各協会会員事務局

2) 過去の成績優秀者を称える

- ・JOA の公式記録に残す。

- ・JOA ホームページで過去の公認大会と優勝者のサイトを作る。

→以上 2 点 JOA 事務局

4. 運営者のモチベーションを高める方策

1) JOA の協力

統一されたデコレーション（スポンサーボード、フィニッシュレーン、ストリーマ・・・）やグッズ（運営者ビブス・・・）の提供

「公認大会推進窓口」、EA を通じての技術的支援

行政の後援などの支援を受ける際の公益社団法人としての JOA の支援

2) 経費負担の軽減

以下の公認料、会員支援金について負担の軽減を図る検討を行うことを理事会に依頼する

- ・公認料（運営者）：カテゴリ A：30,000 円、B：10,000 円、S：5,000 円

- ・会員支援金（参加者）：ロング：1,000 円/人、ミドル/スプリント：500 円/人

3) 参加者や社会からの評価を得る、運営を誇りに思えるようなこと

- ・メディアからの取材、JOA ニュース、WEB で映像使った広報

- ・大会の評価アンケートをとる。

【参考】その他 WG 内でのフリートークのなかから

WG での議論していく過程において、委員から以下のような発言や意見があったので記載します。

今後の協会運営の参考にいただければありがたいです。（順不同です）

- ・学生大会への一般社会人の参加は、世代間交流が生まれ、学生も刺激を受ける。
公認大会を開きたくなるし、参加したくなる。タイムだけではない。
- ・2 年前学生大会の公認多かったが・・・。
- ・学生が公認大会。－人脈の交流、渉外などを JOA や県協会
- ・山西未来塾は良かった。
- ・都道府県協会と学生のつながりが希薄である。
- ・全日本大会の前日に都道府県協会の協議会、一般の方含めた懇親会での交流があるとよい。
- ・北信越は広すぎる、トレインが少ない。金沢、新潟くらいで、富山は無くなった。
- ・大人になってやれる環境が少なくなった。
- ・公認大会は記録会。
- ・地方は人材が少ない。
- ・プロがいる、若い能力のある人、お金があれば可能では？
- ・地元協会は役所との折衝などで協力。
- ・大会の運営コスト（地図、コース・・・）がかかるが、見合った参加費ではなく参加費が安すぎる。大会価値を上げて参加費も上げてよいのでは。
- ・組織運営に興味を持つ人材が少ない。
- ・若い世代でも、組織運営に興味がある人も多くいるのでその活用を。
- ・子育てが終わった世代は、組織運営に関われるのでは。
- ・同じトレインでも使いまわしできないか。コースの工夫で可能と思う。
- ・JOA ニュースの必要性。紙媒体は必要か＝競技者登録者へのサービスだが見直しては。